

# 書評

## 『日本語教育に生かす第二言語習得研究』 (迫田久美子【著】)

人文社会科学研究科  
文芸・言語専攻  
応用言語学領域  
3年 許 挺傑

# 本の概要

## 本の概要

学習者の誤用はなぜ起こるのか？外国語はどのように習得されるのか？といったテーマを扱うのが、第二言語習得研究です。

本書では、この第二言語習得の概略を、初心者にもわかりやすく、実際の誤用例や最近の研究結果などを数多くまじえてまとめました。

⇒第二言語習得研究を目指す方だけでなく、広く日本語教育にかかわる人たちにもぜひ読んでほしい一冊です。

迫田久美子【著】

アクル(2002年2月1日出版)(税込2940)



# 著者の紹介ー迫田久美子先生

- ・現職: 広島大学大学院教育学研究  
科日本語教育学講座教授
- ・略歴: 広島生まれ。広島大学大学院教育学研究科博士後期課程日本語教育学専攻修了。博士(教育学)
- ・専門: 第二言語習得、日本語教育
- ・主な著書: 『中間言語研究ー日本語学習者による指示詞コ・ソ・アの習得ー』(溪水社1998)、『日本語学習者の文法習得』(共著 大修館2001)



# 目次

- 第1章 第二言語習得研究はなぜ必要か
- 第2章 第二言語習得の発達
- 第3章 第二言語習得の理論・モデル
- 第4章 第二言語習得にかかわる要因
- 第5章 バイリンガリズムと年少者教育
- 第6章 第二言語習得研究の方法
- 第7章 第二言語としての日本語の習得研究
- 第8章 日本語の習得研究と日本語教育

# 第1章 第二言語習得研究とは何か

## ◎第二言語とは？

母語は第一言語ともいうが、第二言語は一般的に母語または第一言語の次に習う言語を指す。

## ◎第二言語習得研究とは？

学習者が目標言語をどのように習得していくのか、その習得に影響を与えるのは何か、教え方で違いが生まれるのか、学習者の母語は大きな影響があるのか、第一言語習得と習得プロセスに違いがあるのかなど、第二言語の習得にかかわる様々な事象の研究である。

# 第2章 第二言語習得研究の発達

第二言語習得研究は外国語教育の分野から

各段階の内容(誤用を中心に)

①対照分析研究⇒  
(1940～50年代)



②誤用分析研究⇒  
(1960後半～70年代)



③中間言語研究⇒  
(1970年代初め～80年代)

①学習の困難点は母語と外国語の違い  
→効果的な指導を、両言語の比較対照が  
盛ん(誤用は回避すべきであると)

<仮説が外れ。違う母語→同じ誤用>

②学習者の誤用の原因や指導法の改善を  
検討。(誤用は必然的、誤用を犯すこと  
で習得は進んでいくと)

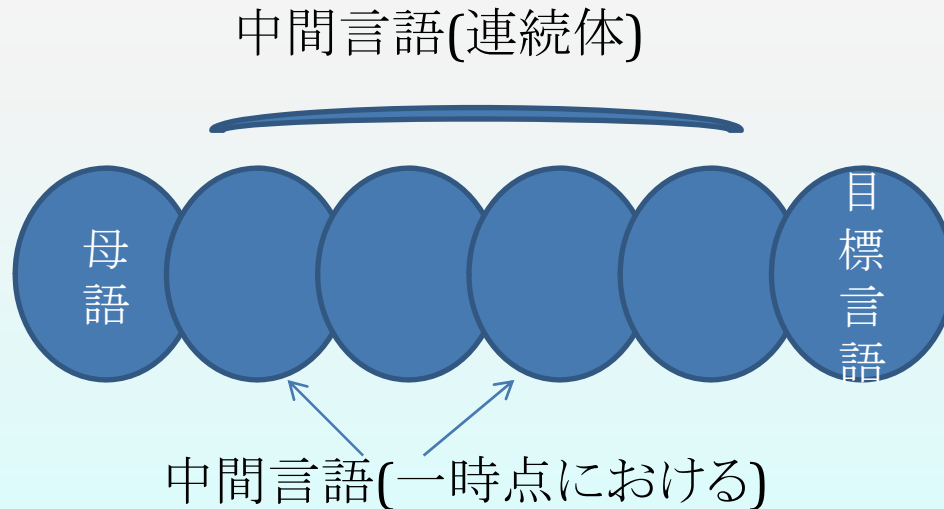
<判定が困難。誤用だけでは限界がある>

③学習者の言語そのもの(中間言語)につい  
て研究すべき。記述研究から学習者の  
習得過程の解明を目的とした理論研究  
へと発展

<定義があいまい。実態が明確でない>

# 中間言語研究

- ◆ 母語が異なる学習者から同じような誤用が産出されることから  
→L.Selinker(1972)は第二言語学習者には母語に影響されない、  
共通の言語体系が存在する
  - ◆ →学習者は学習者特有の言語体系「中間言語(interlanguage)」を  
持っており、習得の段階に応じてその体系は変化する
- 中間言語の二つの意味(図)



# 感想

- ◆ 第二言語習得研究は、外国語(日本語)教育にかかわる人たちにとって欠かすことのできない分野になってきている。
- ◆ その分野の基本的な概念や歴史的な流れなどを初心者にもわかりやすく紹介してある。
- ◆ 巻末に掲載したデータ分析方法の解決や豊富な参考文献リストも、この分野についてさらに研究を進めたい方々には非常に役に立つであろう。



ご清聴ありがとうございました。